五つのテーマで中国大陸を見る

中国駐東京観光代表処 新しい旅のスタイル提案

特集第6弾 三国志

中国大陸観光テーマ案内図

赤壁古戦場

中国駐東京観光代表処は、中国大陸全土の観光魅力を「癒やし」「三国志」「古文明」「西遊記」「大自然」という五つのテーマで日本の消費者にアピールしている。今回はそのうちの一つ、中国南西部で主に展開する「三国志」の旅を中心に紹介する。魏、呉、蜀という三つの国が覇権を争った三国時代に思いを馳せ、諸葛亮ら名将の足跡をたどってみたい。

湖北省

「赤壁の戦い」の舞台

「三顧の礼」の故事生んだ史跡も

湖北省は中国一の大河・長江の中流、中国第2の淡水湖・洞庭湖の北側に位置する。

省都の武漢から100キロ、長江の南岸にある「赤壁古戦場」は三国志の名場面「赤壁の戦い」の舞台だ。乱世の後漢末期、華北を統一した曹操軍が交通の要衝だった荊州（けいしゅう）を治めようと南進を試み、待ち構える劉備と孫権の連合軍と交戦。数十万の兵力に対し、数万と数で圧倒的に不利だった連合軍が軍師・諸葛亮と周瑜の策により勝利した。この戦いで曹操軍は北へ撤退。劉備の蜀、孫権の呉、曹操の魏という三国が天下を分ける時代となった。

古戦場は川岸に「赤壁」と赤い文字で刻まれた「赤壁摩崖石刻」が有名。呉の周瑜が刻んだといわれる。

白帝城

三峡クルーズ

重慶市

劉備終焉の白帝城

三峡クルーズで史跡巡る

重慶市は北京、上海、天津に続く中国4番目の中央直轄市。もとは四川省に属していたが、1997年、内陸部で初めて直轄市の指定を受けた。人口はおよそ3千万人。長江上流の経済の中心で、観光面では「長江三峡下り」の起点となるほか、郊外にある世界遺産の「大足石刻」「中国南方カルスト」が知られる。

「長江三峡」とは、長江中流にある瞿塘峡（くとうきょう）、巫峡（ふきょう）、西陵峡（せいりょうきょう）の三つの峡谷の総称。大きな遊覧船でゆったりと観賞するクルーズが人気を集めている。

標準的なコースは、重慶で乗船、湖北省の宜昌（ぎしょう）で下船する3泊4日のコース。途中、数カ所の観光地に上陸しながらのんびりと船旅を楽しむ。

瞿塘峡には「白帝城」と呼ばれる楼閣がある。後漢時代の群雄・公孫述が築いた城で、三国志では蜀の劉備が呉との「夷陵の戦い」に敗れ、逃げ込んだ場所で知られる。劉備はのちに病に倒れ、この城で生涯を終えた。

湖北省第2の都市・襄陽（じょうよう）では、蜀の諸葛亮が一時、隠匿生活を送った「古隆中」が知られる。頭脳明せきな若き書生・諸葛亮の評判を聞いた劉備が同地に三度出向き、礼を尽くして軍師に迎え入れた故事は「三顧の礼」として有名。諸葛亮が住んだ庵が今も残っている。

荊州市の「荊州古城」は高さ9メートル、幅10メートル、全長10キロの城壁を巡らせた堂々たる古城。蜀の将軍・関羽が築いたものだ。

当陽県の「当陽長坂坡の舞台。

武漢にある「黄鶴楼」は呉の孫権が築いた楼閣で、同地を代表する名所となっている。

武候祠

四川省

蜀国の都、成都

軍師まつる博物館は聖地に

中国大陸内陸部の四川省は、九寨溝（きゅうさいこう）やジャイアントパンダ保護区など、五つの世界遺産を抱える。古名を巴蜀（はしょく＝巴は現在の重慶、蜀は現在の成都を中心とした地域）といい、蜀国ゆかりの文化が今も息づいている。

省都の成都はかつての蜀の都で、現在は人口1500万人を抱える中国有数の大都市だ。

成都にある「武候祠」は、蜀を建国した劉備と、劉備に仕えた諸葛亮を併せてまつる祠。「三国志の聖地」として、ファン必見の場所となっている。「武候」とは諸葛亮の死後のおくり名で、武候祠も元は諸葛亮をまつる祠だったが、明代に劉備をまつる祠と併合された。

武候祠の「劉備殿」には劉備、関羽、張飛の3人の義兄弟、その回廊には蜀の文官、武官それぞれ14体の像が並ぶ。その数はどの三国遺跡よりも多く、一つ一つの像が三国志のさまざまな場面を思い起こさせる。

劉備殿の奥にある「諸葛亮殿」は、諸葛亮とその子孫の像や、諸葛亮の発明品を展示している。敷地内にはさらに、劉備の墓「惠陵」や、三兄弟の像を並べた「三義廟」も建つ。

雲南省

天下一の奇観「石林」

手付かずの自然が残る

石林

雲南省は中国大陸南部に位置し、ベトナム、ラオス、ミャンマーの東南アジア諸国と国境を接する。カルスト地形に代表される自然や少数民族の多彩な文化が魅力だ。

省都の昆明から100キロにある「石林」は、貴州省の荔波（れいは）、重慶市の武隆とともに「中国南方カルスト」の構成要素として2007年、ユネスコの世界自然遺産に登録された。今からおよそ2億年前、地殻変動で海底が隆起。地表に現れた石灰岩が長年の雨風の浸食で削られ、特異な地形が形成された。さまざまな形の石柱が林立し、その姿は「天下一の奇観」とうたわれる。

省北西部のシャングリラと呼ばれる一帯は手付かずの自然が残る。金砂江（長江）、瀾滄江（メコン川）、怒江（サルウィン川）の、青海・チベット高原を源とする三つの大河が6千メートル級の険しい山脈と並行して遠く海へと流れる。この「三江併流」一帯は万年氷河、丹霞（たんか）など多彩な地形を併せ持ち、2003年、ユネスコの世界自然遺産に登録された。

大七孔風景区

貴州省

17の少数民族住む

カルストなど世界遺産に

中国大陸南部の内陸に位置する貴州省は、人口4千万人のうち3分の1以上が17の少数民族で占める。亜熱帯に属するが高原地帯のため極端な暑さや寒さはなく、夏は中国で屈指の避暑地となっている。

同省荔波県のカルストは、2007年にユネスコの世界自然遺産に登録された「中国南方カルスト」の構成要素。「大七孔風景区」の天然のアーチ橋「天生橋」などが見どころ。

2010年に世界自然遺産登録された「中国丹霞」。その構成要素の一つで同省赤水にある「仏光岩」は、高さ300メートル、幅1キロという巨大な赤い壁だ。丹霞とは風水による浸食や土地の隆起により長い年月をかけて形成された赤い砂岩の岩盤。

中華王朝が少数民族のリーダーに与えた官職「土司」関連の遺跡群も2015年、世界文化遺産に登録されている。

湖南省

壮大な自然「武陵源」

明清代の美しい街並みも

湖南省は中国大陸南部の内陸にあり、中国で2番目に大きい淡水湖の洞庭湖の南にあることからこの名が付いた。中国の毛沢東・初代国家主席の出身地で知られる。

省北西部の「武陵源」は1992年、世界自然遺産に登録された壮大なカルスト地形。三つの風景区で構成され、そのうちの一つ「張家界国家森林公園」は、地殻変動と浸食により生まれた高さ200メートル級の石柱3千本以上が林立する。ほかに、「索溪峪」「天子山」の各自然保護区がある。

省西部の「鳳凰古城」は、明清時代の建物や石畳の街路が美しい街並み。住居のほとんどが吊脚楼と呼ばれる高床式の家屋。屋根のある橋など独特の建築物が見られる。

標高1518メートルの天門山は、全長7・5キロのロープウエーや、足下がガラス張りの登山道が整備され、スリル満点の自然体験ができる。

張家界国家森林公園

「中国三国志の旅」モデルコース

日付	日程	食	宿泊
1日目	日本から空路重慶へ	夜機内食	重慶
2日目	重慶から三峡クルーズ乗船	朝○　昼○　夜○	船内
3日目		朝○　昼○　夜○	船内
4日目	（白帝城見学）	朝○　昼○　夜○	船内
5日目	宜昌で下船、専用車で当陽、荊州へ（当陽長坂坡公園、荊州古城など見学）	朝○　昼○　夜○	荊州
6日目	専用車で武漢へ（赤壁古戦場、黄鶴楼など見学）	朝○　昼○　夜○	武漢
7日目	空路上海経由日本へ	朝○　昼機内食　夜×	

自治区 広西チワン族

ゆったりと川下り

水墨画の世界を楽しむ

漓江

広西チワン族自治区は中国大陸南部に位置し、西はベトナムと国境を接する。その名の通り、少数民族のチワン族が多く暮らし、中国の9割のチワン族が同自治区に在住。ヤオ族、ミャオ族、トン族などを含め、住民の4割弱が少数民族となっている。

自治区で有名なのは桂林の「漓江（りこう）下り」だ。桂林から陽朔（ようさく）までの83キロを4時間半かけてゆったりと下る。川の両岸にカルスト地形の山の景色が広がり、その景色は水墨画の世界と形容される。

漓江下り終点の陽朔はもともと多くの西洋人が在住していたこともあり、カフェやショップなどおしゃれな街並みを成している。

桂林郊外の龍勝は棚田の美しい景色が有名だ。

お問い合わせ　中国駐東京観光代表処
cnta.tokyo@gmail.com
TEL03−3591−8686　FAX03−3591−6886